

伊丹市文化財ボランティアの会 火曜会通信

第 48 号

発行日：平成 23 年 2 月 1 日

発行：伊丹市文化財ボランティアの会

発行所：伊丹市千僧 1 丁目 1 番地

伊丹市教育委員会事務局内

平成 22 年度ロマン事業活動を終えて

田中 實

今年度の「歴史・文化が醸し出す伊丹ロマン事業」は伊丹郷町シリーズ 2 回目の「江戸時代の伊丹～人・酒～」をメインテーマに 10 月 31 日～11 月 28 日まで市内各所で種々イベントが行われ、参加者総数は約 21,700 人（伊丹市教育委員会）でした。

当会でも市民対象の史跡めぐりを連携事業として主催し、また企画展示の監視業務・ガイド、オープニングイベントでの紙芝居、スタンプラリーでのガイド及びペープサート等を分担し、期間中の当会員の活動人数は延約 100 人、また当会が分担した事業へ参加して頂いた方は約 600 人でした。下記に当会の活動内容を紹介いたします。

○オープニングイベント

10 月 31 日午前中のオープニングイベント（アイホール）で紙芝居『清酒発祥の地』を演じ、セレモニーを盛り上げました。

○企画展示「人・酒～江戸時代の伊丹」の監視業務・ガイド

展示期間 11 月 3 日から 11 日間 場所 旧石橋家住宅 1 階・2 階

展示内容 小西家所蔵の江戸時代の『女永代日記』に著されている祝宴及び祝膳料理が、再現・展示され、当時の郷町の食生活を身近に感じることができた展示でした。期間中の見学者は約 500 人。延 44 人の会員が監視業務・ガイドに当たりました。

○市民対象・史跡めぐりガイド

文化財ボランティアの会
設立 15 周年記念と銘打ち、
「郷町を歩こう・酒蔵と寺
院めぐり」を実施しました。

実施日 11 月 13 日午前
10 時～12 時 30 分

コースは旧岡田家酒蔵を
起点に法巖寺～墨染寺～正
覚寺～大坂道～荒村寺～本泉寺でした。



参加総数は約 45 人でした。各寺院のご協力により無事挙行することができました。

○伊丹郷町スタンプラリー（こども対象）

実施日 11 月 14 日午前 10 時 30 分～12 時

コース 旧岡田家酒蔵～石橋家住宅～大溝筋跡～長寿蔵～旧岡田家酒蔵

ペープサート『鬼貫』を演じ、オープニングを飾りました。総参加者は約 25 人でした。

○市内史跡一斉清掃

恒例によりロマン事業を締め括る行事として 11 月 28 日午前中、有岡城跡、伊丹廃寺、御願塚古墳において市民参加の一斉清掃が行われ、約 25 人の会員も参加しました。

遍路入門 中山 千恵子

旅と云えば若い時から漂泊の旅と云うのに憧れていました。しかし漂泊の旅と云うのはそれなりの人間の器量が無くては出来るものではなく、そんな気力も勇気も無い者としては、漂泊の憧れは四国八十八ヶ所巡りに限定された旅が安心です。しかし山の中の一人歩きは怖く、高所恐怖症にお化け系が怖いと云う漂泊の素質を持ち合わせない、そんな私の遍路入門物語です。

ほとんど予備知識も無いまま最小の荷物だけを持ち、徳島の一番の霊山寺に着き、菅笠と杖と白衣を用意し、一冊の遍路用の本を買います。そんな姿を少し気恥ずかしく思いながらイザ出発、本と枝や塀に吊るされた小さな遍路姿と矢印の案内札に導かれて進みます。

数ヶ所の寺にお詣をし初めての宿は、さびれた駅前宿、宿主一人で、初めての土地での宿泊客は私一人、おまけに夜中に地震が来て怖くて淋しい遍路初日の夜でした。

歩き遍路をしている人は圧倒的に中高年の男性と若い男子で、私のような六十過ぎのおばさんは少数派です。遍路で寺に参る事を「打つ」と云います。一週間とか、日数を決めて巡礼する事を「区切り打ち」、五十日程かけて全部を巡る事を「通し打ち」と云います。

私の初めての区切り打ちの最大の難所は、十二番目の焼山寺でした。それまでは山裾とか里近くの寺が多く少しずつ遍路にも慣れて順調に進みますが、町中の便利さに暮らしている者の迂闊さで、朝、宿を出たまま田舎道では昼食を取る所も無く、夕方に山裾にあるただ一軒の遍路宿は閉まったまま、途方に暮れて、お寺さんにその話をするとパンとバナナを接待してくれました。お接待とは、遍路者に土地の人が施こしをしてくれる事です。その時遍路は納札を(自分の名前を記入) お札に差し出します。その札には呪力があるとされています。

やっと宿の人が来て、その夜は台風が来るから気の毒と思って泊めてくれました。難所に向かうポイントの宿なので同宿者は

十人ほど、翌日の事を思い優しいような人に同行をお願いし承諾を得て山中の一人歩きの怖い私としてはやれやれです。本来は、お大師様と同行二人の旅ですから怖くないはずですが、信仰心の薄い私としては、お大師様の存在が感じられぬ故です。焼山寺への山道は山に不慣れな者には、本当に「遍路転がし」と呼ばれるそのままの険しい道で、その山中の小さなお堂に泊まる人も居るそうです。



白衣を着用するのは、昔は遍路へ行くのは死を覚悟して行く訳で、途中で死ぬ事があつたらそのまま死装束になります。遍路さんにも様々の人に出逢います。若い人は、悩みを捨ててに來たとか、何かを捜しに來た、中高年は越し方、行く方を見詰めにとか、遍路歩きが趣味とか、時々出逢う反対巡りをする「逆打ち」の人。又は遍路道を宿とし草を枕に何年も歩いている人、こんな人のために昔は善根宿と無料の宿を提供してくれる人も多かつたらしいです。私は遍路道を歩いている時の不思議な開放感と、何者でもない自由な私な心を楽しみます。しかしそれは何時でも帰る事が出来る安堵があつての事なのです。

平城宮跡保存に捧げた命 末次弘幸

平城宮跡会場で昨年 4 月 24 日ー11 月 7 日に開催の「平城遷都 1300 年祭」には、約 363 万人(当初予想の約 1.5 倍)が來場した。だが、この賑わいの影で、平城宮跡保存に命を捧げた人がいたことは、あまり知られていない。その人の名は「棚田嘉十郎」。1860(万延 1)年、奈良に生まれた。20 代

半ばから植木職人として奈良公園で働いたが、仕事中に観光客から「奈良の宮殿跡」につき、たびたび訊かれた。明快に答えられない嘉十郎は1896（明治29）年12月、宮殿跡があると伝わる「都跡（みあと）村」（昭和15年11 奈良市に編入）を訪ねた。その時に嘉十郎が目にしたのは一面に広がる荒れ地と、あちこちに落ちている牛の糞。宮殿跡とは思えぬ光景だった。「7代の天皇が居住された場所がこの有り様。日本人として恥ずかしい。どうにかしなくては……」と、37歳の嘉十郎は荒廃した宮殿跡の整備と保存を決意した。

先ず、奈良県民に保存を訴えることから始めた。さらに政府に陳情のため、40数回も上京を繰り返す。奈良―東京間の往復運賃約10円（当時の小学校教員の初任給）と滞在費をはじめ、保存運動に私財を投じたこともあり、嘉十郎は米すら満足に買えなくなり、家族にはお粥をすすらせたという。嘉十郎が寄付金集めに貢献した1910（明治43）年の「平城奠都1200年祭」は成功裡に終わる。これが転機となり、平城宮跡保存への関心が一気に高まった。1913（大正2）年の「奈良大極殿址保存会」設立に続いて、1922（大正11）年10月には、大極殿を中心とする約10ヘクタールが「平城宮跡」として国の史跡指定を受け、保存が正式に決まった。だが、この朗報は嘉十郎には届かなかった。保存用地買収をめぐるトラブルに巻き込まれた嘉十郎は責任を痛感して、約1年前の1921（大正10）年8月16日に自刃。61年の波乱に満ちた生涯を閉じていたのだ。

現在の平城宮跡は保存エリアが130ヘクタールに広がり、「1300年祭」の会場となったほか、「古代史の宝庫」として数々の考古・歴史情報を提供し続けている。

朱雀門のすぐそばに建つ嘉十郎の銅像が、右手で大極殿跡の方向を指し示しながら、いまも平城宮跡を見守っている。その像の前に立つと、感謝の心でいっぱいになり、自然に頭が下がるのである。

伊丹とアベ氏

中尾 求

近世江戸時代のある期間、伊丹市域に支配地のあった、アベ氏は阿部①②の2家と、安部③④⑤⑥の4家である。①の阿部氏（武蔵国岩槻藩）は正次が老中職のあと、大坂城代となり寛永3（1626）年から正保4（1647）年まで、役知として摂津国4郡内で3万石を加増され伊丹市域では酒井村、岩屋村、東桑津村、西桑津村、中村、下河原村（大部分）御願塚村（小部分）を領有し、病気で辞職した正保4年11月13日の翌日城中で79才で死去し、遺体は酒井村で火葬され墓所がつくられた。現在松源寺前に、推定南北朝時代（1332以降）ごろの立派な五輪塔が供養墓として建っている。②の阿部氏（武蔵国忍藩）は正次の弟、忠吉の子孫正武が老中職の貞享3（1686）年摂津国川辺郡内に1万石加増され、市内では新田中野村、昆陽村、千僧村、大広寺村、下市場村、寺本村、御願塚村（一部分）外崎村（一部分）を、更に元禄7（1694）年、前記村々のほか野間村、南野村（一部分）を加増され、新田中野村の陣屋で摂津国内2万石余の所領を管理して、文政6（1823）年正武の子孫、正權が陸奥国白河へ転封するまで支配した。尚、①と②の阿部家は老中11人を輩出したエリートの譜大名であった。

③の安部氏（武蔵国岡部藩）は、信盛が大坂定番の慶安2（1649）年に1万石加増され、市内では北河原村、天津村、東桑津村、中村、下河原村（大部分）を領有し信之―信友―信峰・・・と子孫相続き、途中④⑤⑥への分知をしながら明治に至った。④は信盛の子で信之の弟、信秀が寛文2（1662）年東桑津村ほかで1千石の分知を受け知行所となり、明治に至った。

⑤は信盛の子で信之の弟、信直が寛文2（1662）年中村ほかで1千石の分知を受け知行所となったが、宝永5（1708）年絶家となり公収された。⑥は信之の子で信友の弟、信厚が延宝6（1678）年北河原村、天津村ほかで1千石の分知を受け知行所となり、明治に至った。

歴史ロマン体験学習に参加して

中村 享子

11月6日に開催された遺跡発掘体験は、去る5月29日と同じく、第315次調査地＝花摘園跡地＝図書館建設予定地で行われました。

発掘という言葉聞き、ある親子はエジプトを連想し、ある男の子はティラノザウルスの骨を連想し、ある父兄は出土した染付陶器の鑑定評価額が気になる。様々なロマンから20組の定員を越えた30組の親子が参加されました。前回の発掘体験から約半年、調査発掘も進んで今回は別のトレンチでした。掘り方さん達が青いシートを開けると江戸～有岡城期の第2面の平らな赤褐色粘土層が表れ、そこには1m内外の土杭（どこう）、掘立柱建物跡らしき直径20cm程度の柱跡等が白いペンキで丸く描かれ、遺構ナンバーの紙札がピンで止められ準備されていました。

現役調査員A氏、指導員のU君の他に文化財ボランティア会員で、昔千葉県等で発掘作業していたT氏など、愛用の手製竹ベラ持参での参加協力でした。私を含め女性数人もお手伝い。

発掘し始めて2分と経たぬうちに疲れた・・・とか、甘えた声を出していた男の子も30分～1時間進めるうちに、額の汗も気にせず笑顔の作業へと変わり、遺物入の袋には1～2個の小片が入っており、遺物を注意深く除いた土は箕（み）に山盛りとなり、その土は掘り方さんに手渡されて4～5mの盛り土の一部へと加えられて行きました。

約2時間の体験ロマン学習を30組の親子達はきちんと作業を終え、配られた終了証明書を手にして喜んでおりました。将来この場所を訪れた時に遺跡発掘作業の一員だったことを大切な思い出にして欲しいですね。



バス旅行

和多 直樹

11月23日～24日 1泊2日で山陰（月山富田城・足立美術館・石見銀山）へ行った。出発のバスが、私の住むマンションの前であったのはラッキーであった。中国自動車道から米子道に入り、蒜山高原で食事をするためだけに蒜山ICを出た。外は雨、蒜山高原は、ガスに包まれていた。冷たい風が身体を震わせた。

蒜山高原センターから丁度1時間で、「安来市立歴史資料館」に着いた。ボランティアガイドの舟木さんが迎えてくれた。資料館は、月山富田城跡の麓にある。小さな資料館であったが、古代・中世・近世の安来市を簡素であるが、判り易く説明しており展示品は豊富であった。

安来市は、中海南岸に位置し、山・川・海のすべてを持つ自然環境に恵まれ、古代の人々は、結構豊かな生活をしていたに違いない。戦国時代が始まると富田城は、激しい攻防の末、城主は、尼子・毛利・吉川・堀尾氏と受け継がれ出雲の政治、文化の中心として繁栄する。堀尾氏以後は、京極氏から松平氏に受け継がれ安来市は、松江藩・広瀬藩・母里藩に分かれそれぞれ発展したという。

私達は、舟木ガイドに付いて「山中御殿平」に登り「山中幸盛像」を見学の後は、二の丸・三の丸跡に行った。そこから、さらに20分登ると山頂である。ここでの収穫は、幸盛の首塚が広島県福山市鞆町にあることで、ここは、私の生家のすぐ近く、以前から、そんな話をすると相手にされなかった。救われた。ガイドの役割は、実に大きい。また、来てみたい所が一つ増えた。

この後、同じ安来市にある足立美術館に行った。多くの観光バスと人で賑わっていた。足立美術館の魅力は、何より全国84ヶ所の候補地の中から、8年連続「庭園日本一」に選ばれていることだろう。庭園の美しさは、圧巻である。徹底した手入れがされている。因みに、2位は「桂離宮」である。窓から眺める庭は、さながら額に収められた油絵であったり、掛軸のようであ

ったりする。四季折々の庭の美しさが楽しめることと思う。

しかしながら、自然派の私にとっては、何か物足りなさを感じてしまった。美しすぎて。ただ、一見の価値はある。・絵の興味は、横山大観の名品の数々であった。一点一点、自分なりの勝手な評価をさせて頂いた。あっという間に時間が過ぎてしまった。

玉造温泉は宍道湖に流れる玉湯川に面していて、松の湯は15件あるホテル群の真ん中にある。泉質は「ナトリウム・カルシウム・硫酸塩・塩化物泉」で弱アルカリ性。とてもナチュラルで気持ちが良い。私は、3回も入ってしまった。

夜は久しぶりにカラオケを楽しんで、いつもより早めの就寝となった。

翌日は、いよいよ「石見銀山」。2007年7月にユネスコ世界遺産に登録された。私は、数年前、GWに車で行って、駐車場に入れなくて諦めたことがある。

2回目は、銀山遺跡「間歩」に入らないで、一人で山吹城跡「要害山」に登った。

銀を積み出した港「鞆ヶ浦」や雪を被った三瓶山に感動し、銀を運んだ道を歩いたことがある。今回は、坑道「間歩」の見学が楽しみの一つであった。私達の行った龍源寺間歩は正徳5年(1715)の開発で、他に、永久・大久保・新切・新横相間歩と代官所の直営「5ヶ山」と呼ばれていた。

龍源寺間歩の開掘の長さは600mで大久保間歩に次いで大坑道、良質の銀鉱石が掘り出されたい。山(間歩)を閉じたのは昭和18年(1943)と言われ実に228年間も掘削されたという。坑道の高さは1.6~2.1m位で、幅は0.9~1.5mあり、タガネで削った当時のままの状態が残っている。また、157m地点の坑道には銀脈に沿って掘り進んだ穴が左右の壁面から20数坑もあり、坑口から85mの地点には排水のため、垂直に掘った坑を見ることが出来る。銀山を中心に学校や町並みがそのままの姿で残っており、代官所跡や裁判所跡やお寺、日本で最も古い大森小学校などがあり、実に楽しい趣のある街道である。当日は水曜日でお休みの店が多か

ったが、有馬さんというお菓子屋さんの「ゲタの歯」というお菓子は抗夫が食べていた物らしい。当時のままの作り方とのことであった。保存食であった。また、中村製パンの「おはぎパン」は焼き立てで美味しかった。何度も行ってみたい所であった。帰り、米子道から眺める「大山」の姿は、頂上部に雪があり、北壁の険しい姿から伯耆富士と呼ばれる綺麗な三角錐になり、やがて、蒜山PAからは楕形となる3つ異なる姿を楽しませてくれた。PAを出発すると、



大森銀山資料館(代官所跡)

走る車には明かりが灯り楽しい1泊2日の旅行が終わりに近づいた。

伊丹市文化財ボランティアの会では、旧岡田家・石橋家や郷町内・旧西国街道など、市内外から訪問される人たちに文化財のガイドを行っています。

市内の史跡・文化財のガイドについてのお問い合わせは、伊丹市社会教育課までお願いします

(☎: 072-784-8090)



思い出の世界遺産(5) 山内 富美子 「アンコール遺跡」の巻

アンコール遺跡の町シェムリアップには、空路で入る人が多いが、私達は、ベトナムのホーチンミン市からバスで国境を越え、メコン川をフェリーで渡り、首都のプノンペンを経て、入っていった。おかげで、ベトナムやカンボジアの人々の、素顔の生活に触れることができ、貴重な体験として思い出に残っている。

9世紀から15世紀前半にアンコール王朝として栄えた時代の栄華を偲ばせるアンコール遺跡には、60余りの石造寺院や都城が存在する。その中で最も有名なものが、アンコール・ワットで、夕日と朝日と昼間の時間帯の異なった景色と姿を見るために3度訪れた。入場前には、顔写真の入った身分証明書を作り、それを首にかけて入場することが義務付けられている。アンコールとは王都、ワットとは寺院のことで、540mの石畳の表参道から見るその姿は、荘厳で美しく、単一遺跡として世界最大規模を誇るスケールには、息を呑む。3重の回廊のうち、第1回廊はレリーフの宝庫、第2回廊は森本右近太夫の墨書が有名、第3回廊には急斜面を登りきると、5つの塔が目の前にあり、回廊をぐるりと歩くと四方の景色が一望でき、アンコールワットが密林の中に存在することが認識できる。まさに天空の楽園で、高さ65mの中央塔の近くにいると、神々の世界に近づいたような気分になる。

もう1つの遺跡アンコールトムは、12世紀末にクメール王朝最盛期に造られた城塞都市で、「トム」とは大きいという意味である。

一辺3kmの城壁に囲まれており、規模はアンコールワットよりずっと大きい。城壁内には、王宮・像のテラス・ライ王のテラスなどがあり、遺跡の中心は仏教寺院バイヨンである。バイヨンの中央神殿を取り囲む仏塔には、世界中の人々に慈悲が届くようにと、4面に観世音菩薩の顔が刻まれている。

もう1つの遺跡は、「女の砦」という意味のバンテアイスレイとよばれる小寺院である。

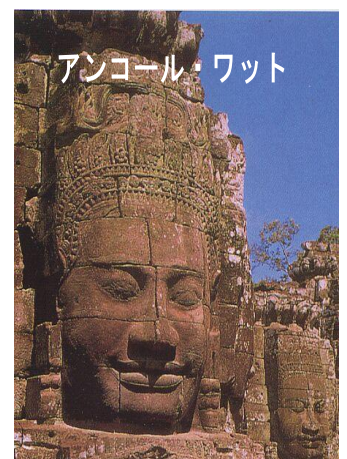
建物は、赤い砂岩で出来ているため、太陽の光りがあたると赤く燃えるようにみえるのが特徴的である。中央神殿の祠堂に刻まれたデヴァターという女性の彫像は、世界屈指の美術作品として知られている。その彫像の柔和な表情は、「東洋のモナリザ」ともいわれている。フランスの作家アンドレ・マルローが、その美しさに惹かれて、デヴァター像を盗み出そうとして、その時の顛末をもとに「王道」を書いたことは、有名なエピソードである。この寺院近辺は、ポル・ポトの兵士達が、長く住んでいた所で、開放が遅れ、ようやく遺跡が整備され、現在は、アンコール遺跡の一つとして注目を浴びている。

1992年に登録されて以来、アンコール遺跡は、世界各国の援助のもと、今尚、保存と修復が進められ、人々の訪れを待っている。

以上



女神デヴァター



アンコール・ワット



アンコール・ワット全景

魚屋道（ととやみち） 坪倉 聖博

『ラニーニャ現象』あまり聞き慣れない言葉である。この現象はペルー沖の太平洋赤道付近で海面温度が低下する現象の事で、これが発生した年の夏は猛暑、冬は厳しい寒さになるとか。昨年の夏の猛暑そしてこの冬の厳しい寒さ、まさしくこの現象のせいだろう。そんな昨年の猛暑の中、七月終りに六甲山へ登った。有馬の温泉街を抜け有馬ロープウェー駅の方へ進む。

ロープウェーの駅前を直進、暫く行くと鳥居と祠がありその右横に魚屋道の登り口があった。近くには鳥地獄や虫地獄・温泉地獄と地獄名を刻んだ石が多くあった。登り口に入ると緩やかな上り坂で両側の木立も大きく深くて直射日光を遮ってくれるので思ったより涼しく感じた。上って行くにつれ、やはり山道、緩・急の坂道もあり、つづら折れの坂もある。また石垣で道を広くきれいに整備したところもある。暫く行くと「六甲最古のトンネル跡」の看板があった。

それによると、明治の初めに大阪～神戸間に鉄道が開通。六甲越えのこの道は交通量が増え道も広く整備され、ここに石垣で作ったトンネルがあったとの事。今は崩れて跡形もないが、荷物を運ぶ馬や湯治客を乗せた駕籠がこの道を往来したのであろう。また荷物の中には深江辺りからの新鮮な魚介類もあり「魚屋道」と呼ばれる様になったのかな、と勝手な想像を巡らせ上って行くと、紅葉谷から上がって来る炭屋道と合流、この道の名も勝手な想像を巡らせ歩き続ける。ここら辺りから両側の木立も途切れ途切れになり真夏の太陽が照りつける。汗を拭きながら歩いていると上の方から車の走る音が聞こえる。目的のゴール、一軒茶屋はもうすぐ急に元気が出る。木立を抜けると日差しは強い。適当な木陰を探しその下での一本の缶ビール、最高に美味かった。



注連縄作り

12/25(土)恒例の注連縄作りを中央公民館で開催。16名程の会員が参加し、注連縄作りに精を出した。

指導員はこの日の為に裏白取りや藁叩きなど事前に準備をされたとか、この様な労もあって参加希望者は毎回多い。約2時間もすると立派な注連縄が完成。それを眺める顔は、皆、満足げな笑顔であった。

主な活動記録

ガイド実施記録 (2010. 11～2011. 01)

	2010 年 11 月		2010 年 12 月		2011 年 01 月		累計 10.04～11. 01	
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
月	2	82					3	92
火	1	20			1	10	5	106
水	1	27					5	212
木	2	77	2	61			9	256
金	2	41	2	92	1	30	7	197
土	1	34	1	20			7	216
日							2	60
計	9	281	5	173	2	40	38	1139

ガイド実施内容

- ・1/4(木)旧岡田家(東寿会 芦屋) ・11/8(月) F コース(シルバーカレッジ 神戸)
- ・11/10(水) 旧岡田家(北部食品衛生協会 大阪) ・11/12(金) A コース(宮水学園 西宮)
- ・11/16(火) B コース(北県民局 三田) ・11/18(木)旧岡田家(いきいきシェア和歌山 和歌山)
- ・11/20(土) A コース(海洋会ハイクラブ 尼崎) ・11/26(金)旧岡田家(甲東老友連合会 西宮)
- ・11/29(月)有岡城跡(阪神シニアカレッジ 伊丹) ・12/4(土) D コース(鴻池歴史顕彰事業 伊丹)
- ・12/16(木)旧岡田家(近鉄友の会 大阪) ・12/17(金)旧岡田家(近鉄友の会 大阪)
- ・12/17(金)旧岡田・石橋家(年金受給者協会 津) ・12/23(木) B コース(松寿会 神戸)
- ・1/7(金) A コース (福島区食生活改善推進協議会 大阪) ・1/25(火)旧岡田家(道ようの会 川西)

どんぐり座公演 (11 月～01 月)

- ・11/14(日)旧岡田家住宅酒蔵 ①ペープサート「鬼貫」 ・12/4(土)慈眼寺本堂 ①紙芝居→「清酒発祥の地 伊丹」 ・12/23(木)あんずデイサービス伊丹 ①ペープサート「鬼貫」 ②紙芝居「聖徳太子と容住寺」 ・1/15(土)伊丹市北センター ①紙芝居「清酒発祥の地 伊丹」 ②紙芝居「桜物語」

伊丹ロマン事業支援 ・10/31(土)～11/28(土) 企画展示「人・酒～江戸の伊丹」の監視とガイド。
・当会の、設立 15 周年記念行事として→ 連携事業「郷町を歩こう・酒蔵と寺院めぐり」の実施 等

注連縄作り 前頁説明

歴史ロマン体験学習の支援

- ・11/6(土)発掘体験革製 ・12/18(土)ステンドグラス風鉛筆立て作り ・1/22(土)勾玉作り

02 月～03 月の予定

- ・有岡城跡の清掃実施→ 毎月第 4 火曜日 午前 9 時 30～
- ・歴史ロマン体験学習の支援予定 ・2/5(土)行燈作り
- ・3/5(土)モザイク手法で古代画に挑戦 ・4/ 未定



編集後記

牛の口蹄疫に鳥インフルエンザの発生。流行り病は動物界だけかと思っていたら、1 月に入り新型インフルエンザが流行の兆し。感染を防ぐには手洗いやうがいマスク着用等が効果あると云う。動物に出来ない自己防衛で厳寒を元気で乗り切ろう。(TR)